

2024年1月11日

埼玉県大学・短期大学図書館協議会
加盟館 各位

埼玉県大学・短期大学図書館協議会
立正大学

SALA 学生協働連携活動の提案

2022年度に実施した研修会では、SALAの今後の取り組みのアイデアとして、学生協働について挙げる大学が複数校ありました(2022年度研修会でのアイデア参照(末尾添付))。また、2023年度の幹事館内での話し合いの中で、学生協働連携について前向きに検討できそうな大学を確認することができました。これらを踏まえて、SALAで学生協働連携活動の提案をさせていただければと思います。

文部科学省が提示した「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議まとめ)」では、「デジタル・ライブラリー」の構築を前提とはしていますが、大学図書館間の連携を促しています。「デジタル・ライブラリー」の構築にはまず、専門的知識やスキルをもった人材の人的ネットワークの必要性が求められますが、それらを有効かつ効果的に利用するための利用者レベルでの人的ネットワークの構築も必要であると考えられます。

大学図書館の中心的な利用者であり、学生協働として大学図書館業務をサポートしてくれている各大学の学生の皆さんが連携することで、SALAの取り組みと活動とそれに関連する各大学の活動は今まで以上に盛り上がるのではないかと考えています。まずは参加が可能な大学からできる範囲で連携を始め、徐々に規模や内容の充実を図り、連携体制の確立を行えればと思います。つきましては、以下の通り学生協働連携の説明会を開催いたします。少しでも興味のある加盟校様は是非ご参加ください。よろしく願いいたします。

1. SALA 学生協働連携事前説明会(学生協働連携に興味をお持ちの加盟校の職員)

日時：要調整(以下のサイトより都合の合う日程の入力をお願いします)

<https://chouseisan.com/s?h=a952efb08b344a43995f248e0cd9ea61>

実施方法：オンライン形式(Teams)

目的：SALA 学生協働連携の方向性のすり合わせ、1回目会合の内容・日程調整


2. SALA 学生協働連携の方向性(たたき台)：

- (1) 学生協働連携の主体を学生とし、職員はサポート(方向性がぶれない確認)に回る
- (2) 学生協働の実施に関わらず SALA の加盟校に学生協働連携が展開できる環境を整える
- (3) 対面・オンラインを効果的に活用し、スムーズな活動の展開が行えるようにする
- (4) 学生協働連携での学生の学びを最大化できるよう、職員は継続的な学習と実践を行う
- (5) 学生協働連携が活発に行えるよう、SALA 加盟校の図書館職員の密な関係を続ける

2022 年度研修会で参加者より出たアイデアの概要

	テーマ	内容
「図書館等間の相互協力の推進」の具体的なアイデア	「学生協働サミット埼玉版：図書館と県民のつどい埼玉で僕と握手」を開催	学生協働の分野に於いてもSALA加盟機関の中で相互協力を進める。はじめに、まずが各校の学生サポーターの代表・幹部らが集まって、連携に向けての取っ掛かりを作る。同じく各校の学生サポーター担当の職員同士もここで連絡先や情報の共有を行う。 次のステップとして、各校の学生サポーターの活動内容などをまとめた資料を共有し、お互いの活動を紹介し合い、相互理解を深める。 最後のステップとして、交流や相互理解で得られた成果を外に向けて発信する。12月の「図書館と県民のつどい埼玉」の展示企画に参加し、県内外の人たちに各校学生サポーターの活動をアピールする。公開イベントなので一般学生にも声を掛けられる。ここ数年、オンライン開催なので、学生も参加しやすいのではないかと。 SALAの学生版という感じで、コロナ禍で途切れたり、少し停滞した学生の課外活動（ここでは図書館の活動になるが）の支援を図書館間の相互協力の中で行う。
	加盟館による図書館巡回展	共通テーマを決めて、SALA参加館でそのテーマに沿ったおすすめ本を5～10冊選定する。それぞれにオススメコメントをつけて、まとめて展示を行う。展示は、参加館の巡回展とする。 巡回を行う際、各大学のキャンパスグッズ、図書館グッズを持ち寄り、広報を行うとともに販売する。 最終的にSALAとして、「埼玉県 図書館と県民のつどい」で展示とグッズの販売を行う。 これにより、各加盟館間の交流を図るとともに、グッズ等による図書館利用促進、広報をすすめる。 さらに、学外（地域）に対し、「つどい」に参加する形で、県内の大学図書館の活動を紹介する。
	SALA加盟館間のILL文献複写料金の無料化	SALA加盟館同士の文献複写のやり取りは原則無料とする。予算についてはSALAの予算から捻出し、そこから支払われる仕組みを検討する。
	所属大学・機関の身分証でSALA加盟館を相互利用	所属大学・機関の身分証で他のSALA加盟館を利用できる。利用できるサービスは、閲覧だけでなく貸出（返却は郵送もOK）も含める。また、一度利用した利用者の継続利用を推進するため、利用者情報を登録する。
「図書館活動に関する調査・研究」の具体的なアイデア	教職員でつくる学生にとってより良い図書館！！	教員と連携し授業内でアンケートをとる。それをSALA所蔵校全てが行い、定例会を開催し適宜報告する。
	クラウド上でのデータ共有	日図協調査・実態調査などの各館回答をクラウド上にアップしてSALA会員間で情報共有する（項目によっては無制限で公開する）
	SALAレファレンス事例データベースの構築	SALA参加館のレファレンス事例の共有データベースの構築を図る。収集範囲としては、通常のレファレンス事例に加え、クイックレファレンスなども含めて投稿できるようにすることで件数の共有を図る。また、ライティングサポート等、館内での参考・問い合わせ事例も共有する。なお、システム要件として、随時参照・投稿が可能ないようにログイン方法を簡便に、また動作もなるべく重くならないよう構築する。
	学生の図書館利用状況と学生の成績は関連性があるかについて研究	学生の図書館滞在時間を調べ、学生に利用目的、図書館への要望等をアンケート調査して、その結果と学生の成績に関連性があるか研究する。そのうえで、学生利用の促進につながる工夫などについて研修を実施する。
「研修会等の開催」の具体的なアイデア	他館がどのように対応しているかを随時、気軽に聞ける場	他館の対応状況を気軽に聞けて、答える人も気軽に回答できる掲示板機能。 回答できそうな館が負担少なく回答する。NACSIS-CAT/ILLシステム停止期間の具体的な対応など。
	オンラインで、人的ネットワークを広げよう	図らずもオンライン環境の整備が進み、研修会などをオンラインで行う機会が増えた。オンラインの利点を活用し、SALAの人的ネットワークを広げる機会を設け、SALAのつながりを強固なものにする。参加しやすいように多様なチャンネルを用意する。

以上



SALA学生協働連携 事前打ち合わせ

方向性のすり合わせ

SALA研修会担当校（立正大学）

SALA学生協 働連携活動の 提案（背景）


- 2022年度実施の研修会のご意見を受けて
- 2023年度の幹事館での話し合いの中で
- 人的ネットワークの大学図書館間連携



本日の予定

- 参加館担当自己紹介（アイスブレイク）
- 事前ヒアリング結果の共有

以下、検討事項

- 学生協働連携に向けたたたき台（要点）提示
 - 学生協働連携案・予定の提示
 - 次回に向けた調整
- 

本日の参加館
(申請順)

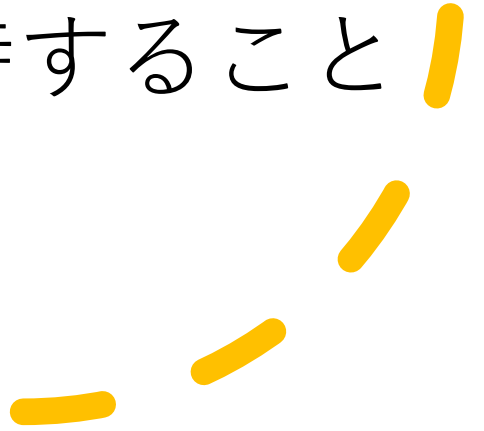
- 聖学院大学
- 城西大学
- 文教大学
- 日本赤十字看護大学
- 早稲田大学
- 獨協大学
- 立正大学



アイスブレイク

参加館自己紹介

以下のご説明をお願いします

- ①大学名
 - ②氏名
 - ③学生協働担当歴
 - ④今回の取り組みに期待すること
- 

事前ヒアリング 結果の共有

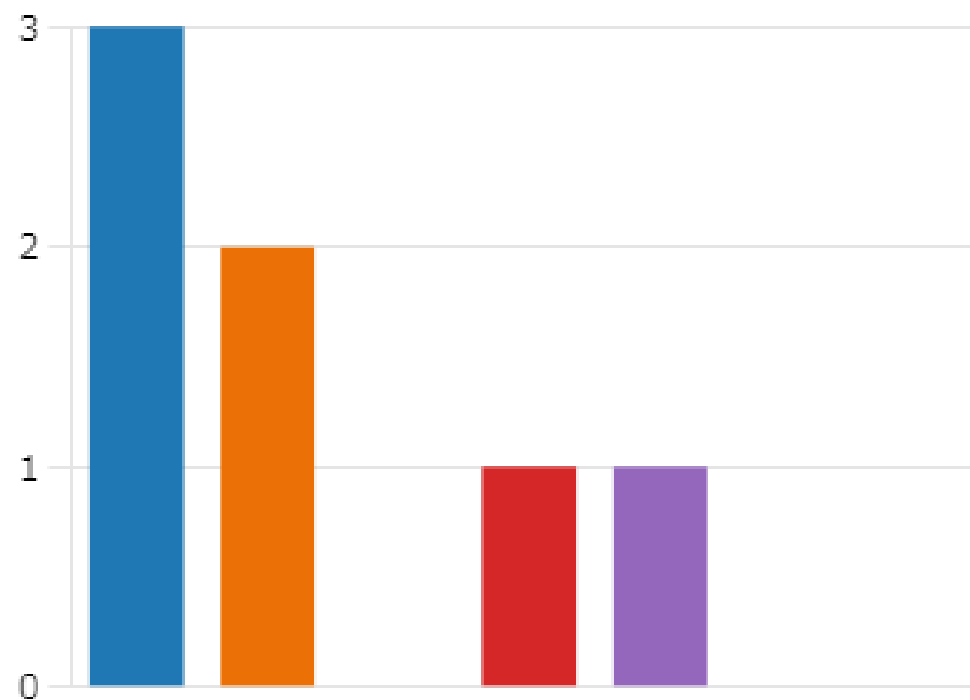
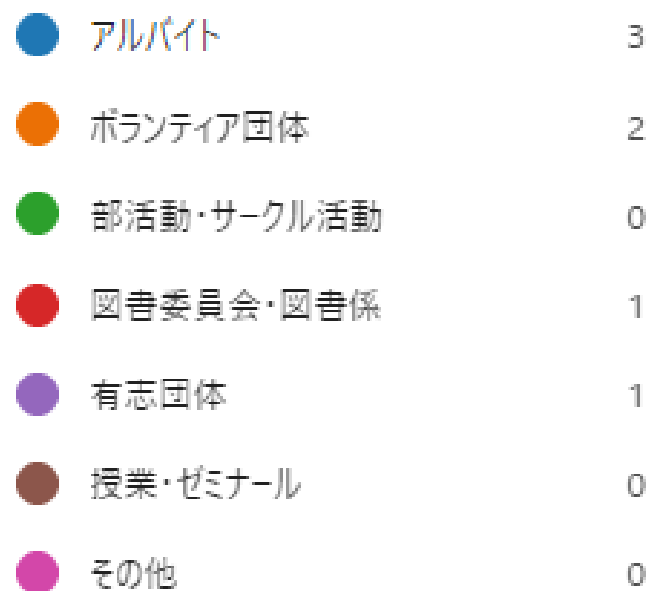
質問項目

- 学生協働団体の組織形態について
- 学生協働活動に対する報酬について
- 人数の規模について
- 活動の頻度について
- 活動内容について
- 団体を管轄している部署
- 現時点で気になっている項目



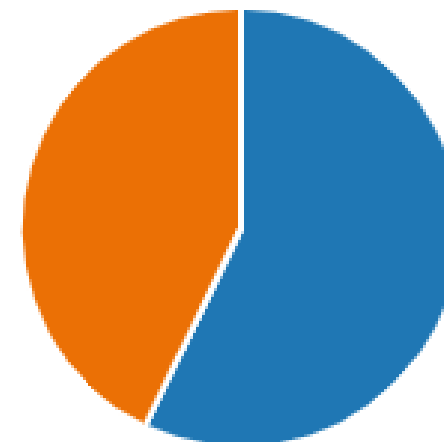
3. 学生協働団体の組織形態について

詳細



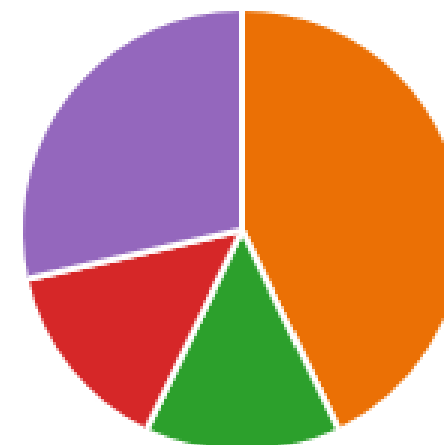
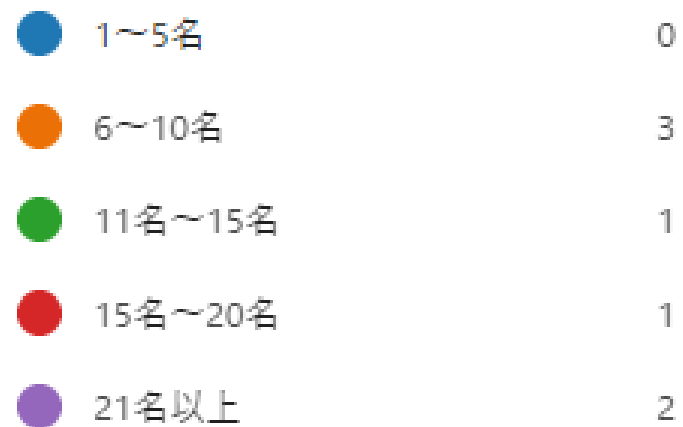
5. 学生協働活動に対する報酬について

詳細



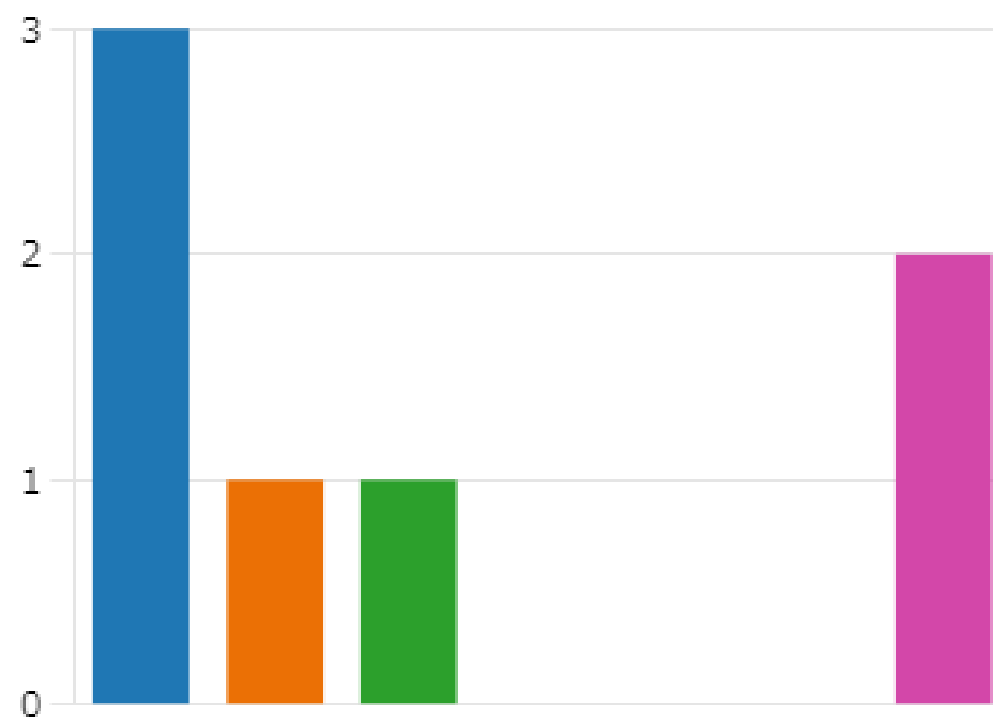
6. 人数の規模について

詳細



7. 活動の頻度について

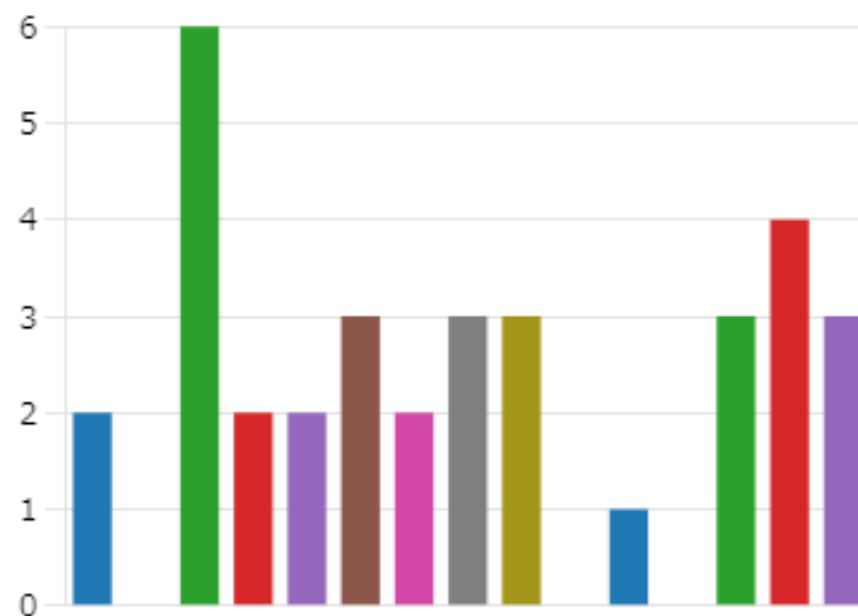
詳細



8. 活動内容について

詳細

● 図書装備（バーコードの貼付等）	2
● 図書館システムへの登録作業	0
● 資料展示（館内・学内問わず）	6
● 学修サポート業務（論文・PCサポ...	2
● 選書ツアー	2
● Word・Excel・Powerpointでの文...	3
● 画像作成・画像編集	2
● 動画作成・動画編集	3
● ビブリオバトル	3
● 資料の補修作業	0
● カウンター業務（資料の貸出・返却）	1
● レファレンス業務	0
● 学内イベントへの協力（オープンキャ...	3
● 学外イベントへの参加・出展（規模...	4
● その他	3



9. 団体を管轄している部署

詳細

● 図書館（専任職員）	6
● 学部（教員）	0
● 授業（担当教員）	0
● その他	1



11. 現時点で気になっている事項があればご回答ください

詳細

● 職員の間与の度合い(負担)について	4
● 交流時に発生する経費(交通費・消...	1
● 交流・活動の頻度・期間について	3
● 学生によるモチベーションの違いにつ...	4
● 具体的な交流・活動の内容について	4



学生協働連携に向けたたたき台 (要点) 提示

- 学生協働の実施に関わらずSALAの加盟校に学生協働が展開できる環境を整える
- 学生協働連携の主体を学生とし、職員はサポート（方向性がぶれない確認）に回る
- 対面・オンラインを効果的に活用し、スムーズな活動の展開が行えるようにする
- 学生協働連携での学生の学びを最大化できるよう、職員は継続的な学習と実践を行う
- 学生協働連携が活発に行えるよう、SALA加盟校の図書館職員の密な関係を続ける

学生協働連携 体制・活動案

学生協働連携担当校の決定

- 学生協働連携活動を行う加盟校から選ぶ
- 当面は立正大学が行う（幹事館任期中）
- この期間に一定の枠組みを作る
- 2024年度は試験期間として以下を行う
 - ①学生交流会
 - ②加盟館見学ツアー
 - ③県民のつどい参加（活動発表）



学生協働 連携案・予定 の提示

- 4月：第1回学生交流会
- 6月：第2回学生交流会
- 9月：加盟館見学ツアー
- 11月：第3回学生交流会
- 12月：県民のつどい
- 2月：第4回学生交流会
- 3月：職員打合せ



次回に向けた 調整

- 4月：第1回学生交流会
候補日：① 4月〇日 ()
② 4月〇日 ()
③ 4月〇日 ()
- 実施方法（対面・オンライン・ハイブリッド）

